

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

| 疾患名 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 平成 29 年 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 性器クラミジア感染症 | 239 | 277 | 251 | 272 | 267 |
| 性器ヘルペスウイルス感染症 | 229 | 280 | 291 | 300 | 285 |
| 尖圭コンジローマ | 50 | 55 | 58 | 86 | 65 |
| 淋菌感染症 | 29 | 40 | 52 | 52 | 60 |
| 性感染症報告数 小計 | 547 | 652 | 652 | 710 | 677 |

| | | | | | |
|-------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 326 | 337 | 321 | 283 | 269 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 27 | 14 | 14 | 7 | 5 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*)} | — | — | | | |
| 薬剤耐性菌感染症報告数 小計 | 358 | 352 | 336 | 291 | 275 |

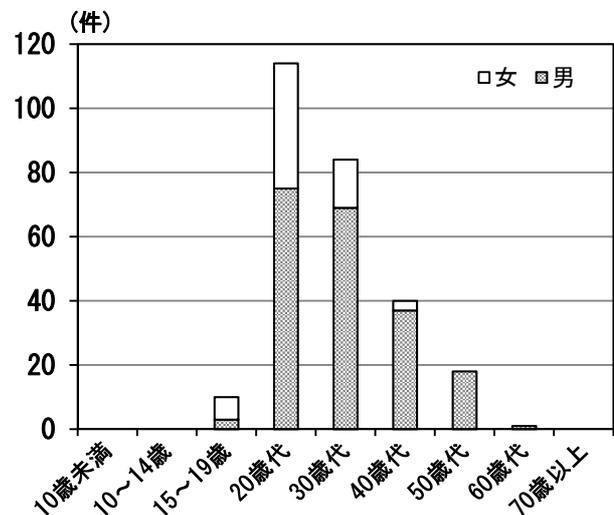
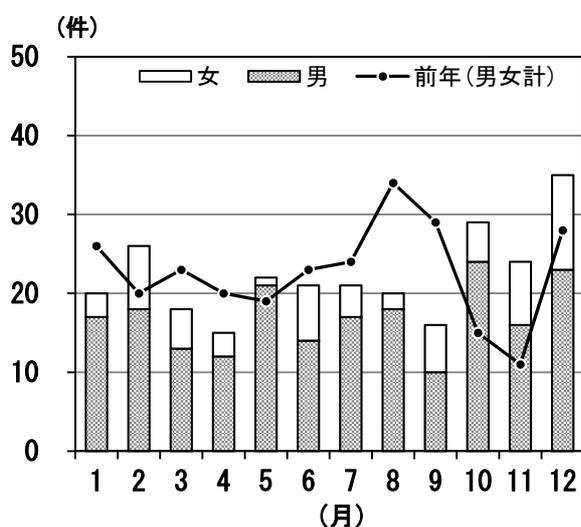
^{*)} 平成 26 年 9 月 19 日より全数把握疾患として追加された。

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は 677 件と、前年（710 件）からやや減少した。過去 5 年間では、約 550～700 件の範囲で推移している。男女別では、男性 383 件（前年 375 件）、女性 294 件（前年 335 件）と、男性は前年と変化なかったが、女性の報告数は減少した。疾患別では前年同様、性器クラミジア感染症（39.4%）、性器ヘルペスウイルス感染症（42.1%）の割合が非常に多く、次いで尖圭コンジローマ（9.6%）、淋菌感染症（8.9%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は267件と、前年(272件)とほぼ同数報告され、過去5年間の年間報告数も約240~280件とほぼ横ばいで推移している。月別報告数においても、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告された。男女別では、男性203件(前年201件)、女性64件(前年71件)と、男性、女性とも前年と変わらず、全体では男性(約76%)が多くを占めた。

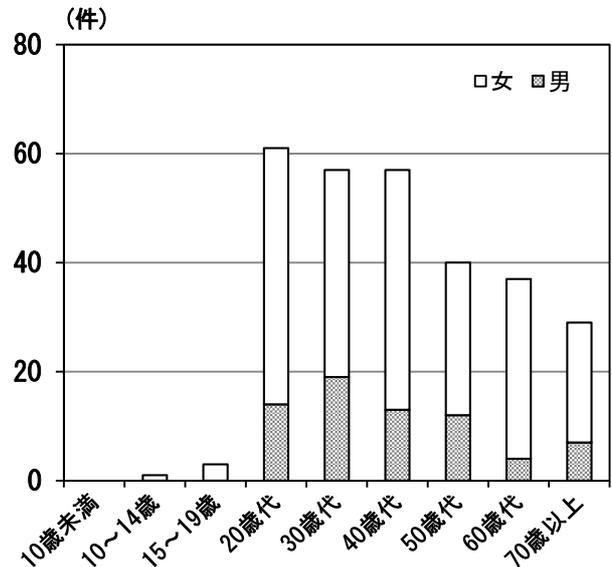
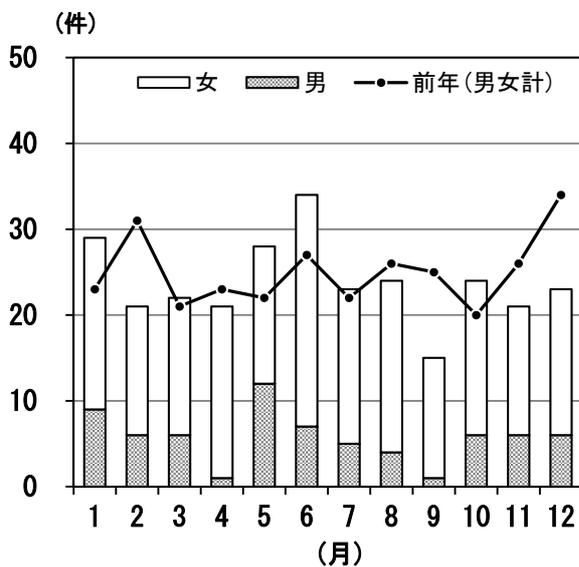
年齢別報告数では、10歳代3.7%、20歳代42.7%、30歳代31.5%、40歳代15.0%、50歳以上7.1%と、20~40歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

年間報告数は285件と、前年(300件)と大きな変化はなく、平成26年以降約280~300件とほぼ横ばいで推移している。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告された。男女別では、男性69件(前年67件)、女性216件(前年233件)と、男性、女性とも前年と変わらなかった。また性感染症全体では男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約76%を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高かった。

年齢別報告数は、10歳代1.5%、20歳代21.4%、30歳代20.0%、40歳代20.0%、50歳代14.0%、60歳代13.0%、70歳以上10.2%と、20~40歳代がやや高かったものの、幅広い年齢層から報告された。また、60歳以上の高齢者からの報告数が23.2%と他の性感染症と比較して多い傾向が見られたが、潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

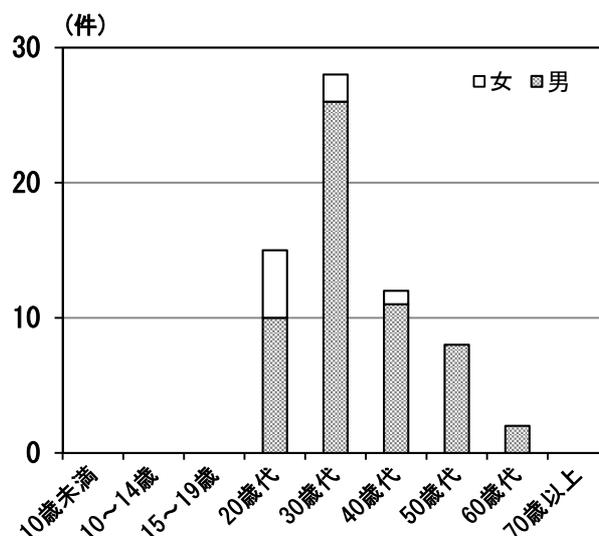
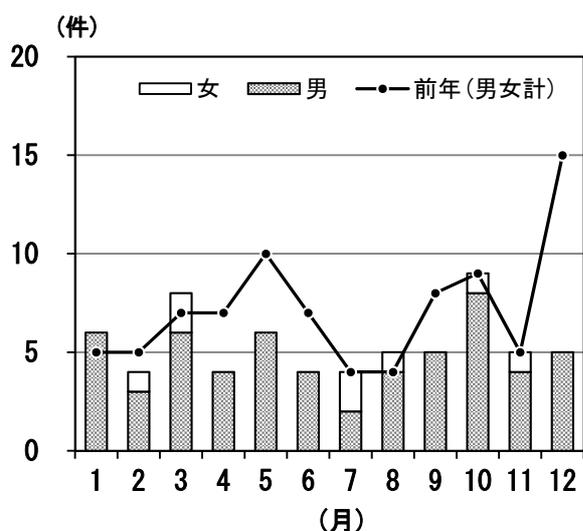


③ 尖圭コンジローマ

年間報告数は65件と、前年(86件)からやや減少した。過去5年間の年間報告数は、平成28年を除き、年間約60件前後で推移している。男女別では、男性57件(前年59件)、女性8件(前年27件)と、前年と比べ女性の報告数が減少し、全体では男性(約88%)が多くを占めた。

年齢別報告数は、20歳代23.1%、30歳代43.1%、40歳代18.5%、50歳代12.3%、60歳以上3.1%と、他の年代に比べ20~40歳代からの報告が多く、全体の約85%を占めた。

尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

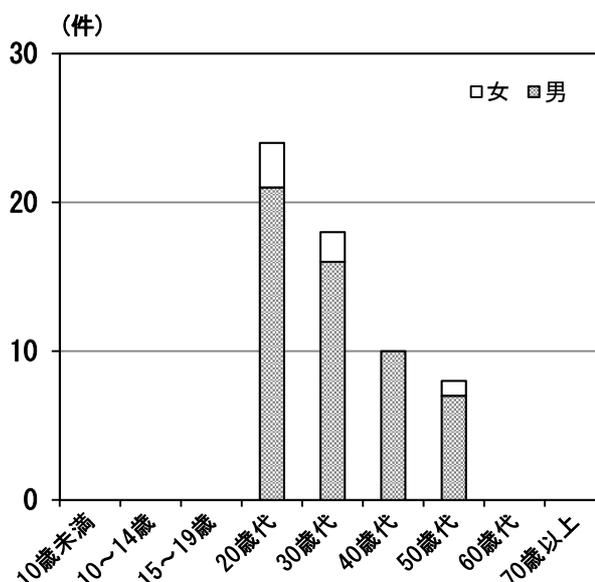
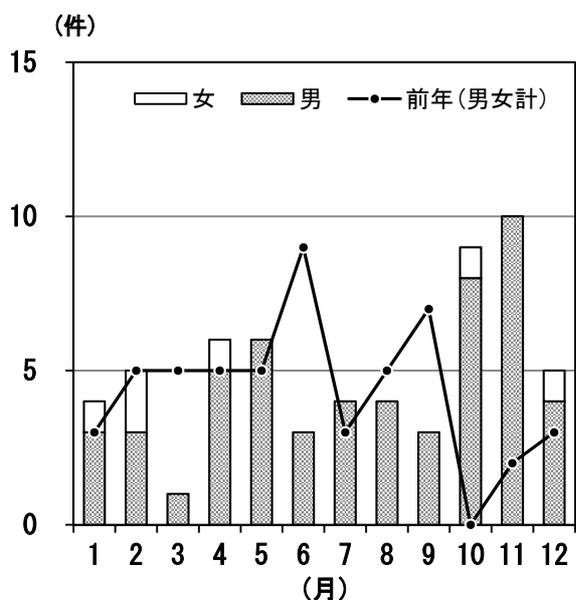


④ 淋菌感染症

年間報告数は60件と、前年(52件)からやや増加した。平成24年(19件)以降、緩やかに増加している。男女別では、男性54件(前年48件)、女性6件(前年4件)と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約90%を占めた。

年齢別報告数は、20歳代40.0%、30歳代30.0%、40歳代16.7%、50歳代13.3%であった。他の性感染症と同様に、20~40歳代の割合が高く、全体の約87%を占めた。

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

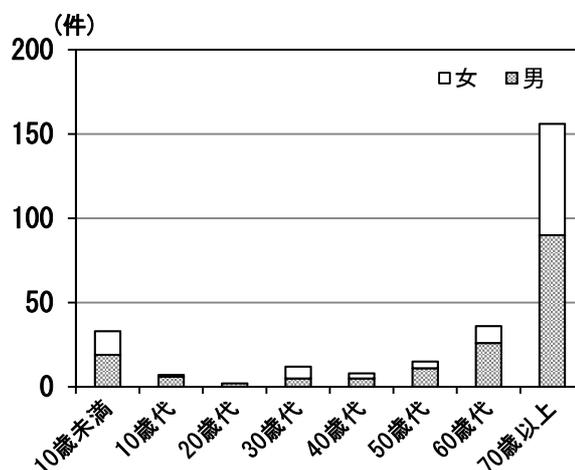
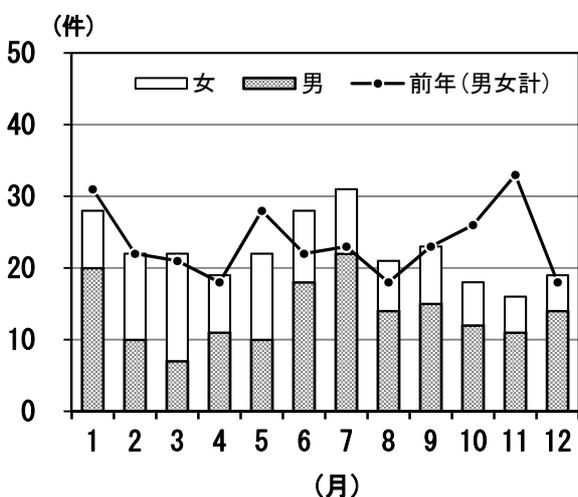
薬剤耐性菌感染症の総報告数は、平成 24 年以降大きな変化はなく毎年 350 件前後で推移していたが、本年は 275 件と、前年 (291 件) に続き 2 年連続でやや減少した。疾患別の届出数においては例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半 (約 98%) を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間報告数は 269 件 (男性 164 件、女性 105 件) であり、前年 (283 件) からやや減少した。過去 5 年間では、毎年 270~340 件前後で推移している。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は見られず年間を通じて報告され、男女別では、前年同様に男性が女性より多く報告された。

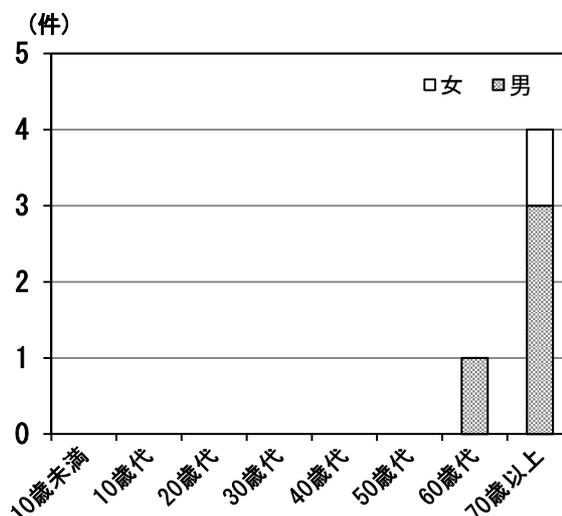
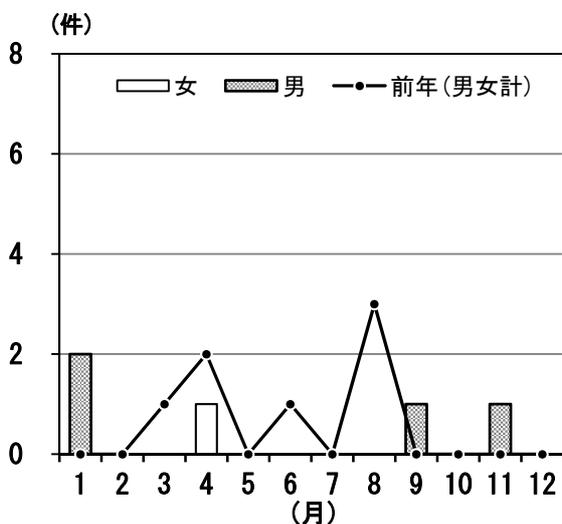
年齢別報告数は、10 歳未満 12.3%、10 歳代 2.6%、20 歳代 0.7%、30 歳代 4.5%、40 歳代 3.0%、50 歳代 5.6%、60 歳代 13.4%、70 歳以上 58.0%と、前年同様に 60 歳を超え年齢が高くなるにつれ大きく増加した。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は5件（男性4件、女性1件）と、前年（7件）からやや減少した。過去5年間では、平成25年（27件）以降緩やかに減少している。

年齢別報告数では、60歳代20.0%、70歳以上80.0%と、60歳未満から報告は見られなかった。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は前年に続き1件（男性、30歳代）であった。過去5年では、毎年5件以内の届出数で推移している。

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

